

令和3年度 事業報告

事業の概要

本年度の事業の概要は次の通りであります。

1、研究助成(公募)

公衆衛生の向上及び生活環境の保全を促進させる。
研究や活動を行っている個人又は団体に対し助成金を支給
今年度は下記のテーマに関連する研究を助成対象としました。

①「感染症及び外来生物」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 18件
- ・助成支給件数 10件 (100万円/件)

「簡便で効率的な遺伝子改変を実現するマダニ細胞のゲノム編集技術の確立」

鹿児島大学 教授 田仲哲也

「駆除するハエを用いた畜舎単位での病原ウイルス浸潤評価方法の構築」

岐阜大学 研究員 清水 薫

「中部地方の野ネズミ類とマダニにおける人獣共通感染バベシアの分子疫学調査」

岐阜大学 准教授 正谷達膳

「ウイルス媒介節足動物における逆転写による核酸免疫維持機構の解明」

長崎大学 特任研究員 平野 港

「ミツバチ寄生性ダニ及び蜂病ウイルスが蜂群の採餌に与える影響の解明」

農業・食品産業技術総合研究機構 主任研究員 荻原麻里

「日本で初めて検出されたマダニ媒介性病原体と越境性に関する研究」

国立感染症研究所 主任研究官 新倉 綾

「昆虫脱皮ホルモン生合成に着目した感染症媒介蚊に対する新規殺虫剤に関する研究」

筑波大学 教授 丹羽隆介

「脂質輸送機構を介したアルボウイルスの蚊での体内輸送と経卵巣感染機構の解明」

岐阜大学 助教 西山祥子

「複数年に渡り国内同一地域において発見された特定外来アリ類の血縁解析」

国立環境研究所 任期付研究員 坂本洋典

「牧場及び牧場周辺の環境要因が吸血性アブ類の発生・飛来消長に与える影響の解析」

帯広畜産大学 助教 菅沼啓補

②「生物機能の産業利用・工業化」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 17件
- ・助成支給件数 8件（100万円/件）

「繊毛虫ミドリゾウリムシと共生クロレラの生物資源としての実用化を目指した研究」

島根大学 准教授 児玉有紀

「無菌蚕由来のシルクフィブロインによる人口骨膜の開発」

鶴見大学 助教 江口貴紀

「海洋生物の防御機能から着想を得た付着阻害化合物の合成的探索研究」

北海道大学 准教授 梅澤大樹

「安全性に優れたバイオフィルム形成阻害剤の開発と実用化」

広島大学 特任准教授 野田正文

「抗体の分子認識能と刺胞動物の蛍光を巧みに融合したマルチカラーセンサー開発」

東京工業大学 准教授 北口哲也

「植物器官に着着想を得た階層凹凸パターンのボトムアップ形成と異方漏れ表面の創製」

名古屋大学 准教授 永島 壮

「リン脂質膜の相転移を利用した高感度フォトニック結晶センサー」

東京農工大学 特任助教 内田紀之

「捕酵素NAD⁺/NADHを範とした光再生型有機ヒドリド錯体触媒による二酸化炭素還元」

富山大学 准教授 大津英揮

2、奨学金事業

公衆衛生の向上や生活環境の保全を進める人材育成のため、国内の大学院生とアセアン諸国からの留学生に対し奨学金を支給した。

・令和3年4月より奨学生8名に月額5万円給付実施